

特集

セルドローンの事業は 幸運な巡り合わせから始まった

今月号ではそもそもセルドローンの出会いから今日までの経緯をお話したい。

2013年のGW明けのとある日、品川駅新幹線改札の中二階にあるスタバにて、長岡生コンクリートの宮本専務から「何か捨てるモノありませんか？」と尋ねられたのが、事の全ての始まりである。

なんのこっちゃ分からない私は「ふん」「へえ」を連発してその場を去った訳ですが、翌日、本当にその翌日に全く異なる内容で初めて訪問した皆川商事の皆川専務から「藤井さん、変わったモノがあるんですけど、何かになりませんか？」と唐突も無く訊かれたことが、まさに「セルドローン」が事業としての生命

を授かった瞬間である訳です。

そこから「もう」と言うか「まだ」と言うべきか3年半、本当に数多くの幸運、巡りあわせがあり、今日を迎えている訳ですが、いよいよ福島工場も立ち上がり、他の地区でも可能性が少しづつずつが見えるようになって来た、といっても良いでしょう。

なぜ、今、セルドローンの需要が始めているのか、の答えはセルドローンの製品特徴そのものであると考えます。

- ①「瞬間性(養生期間不要)」
 - ②「汎用性(対象を有機物、無機物を問わない)」
 - ③「低環境負荷性(生分解される)」
- の3つであり、そのメカ

ニズムは特許5931267及び5959709に記載のある通り「短繊維で構成された粒子が固液混合体を拘束する」と、出会ったころの「捨てるモノ」から大きく姿を変えて表現されています。詳細はホームページ <http://gppg.tokyo/cellidron.html> に目をお通し

頂きたいですが、一方今後の需要と用途の拡大に備えて、我々の自己査定ではなく、第三者の立ち位置として大学機関でのセルドローンの検証、研究を依頼しており、次回号にて具体的にご紹介出来ればと考えています。全くの偶然から始まったこのセルドローン事業が、今後どう移り変わって行くか、どう成長していくのか、当事者の私もまだ先が読めず、ドキドキ感を以て日々過ごしています。是非、皆様も我々と一緒にセルドローン事業の成長を楽しんで下さい！

セルドロンとは？

吉紙を微細化加工した微細パウダー。唯一無二のセルロース系固着材で、汚泥や濁水・土砂の除去などで大活躍します。

瞬間吸水性: ドロンと、あっという間に養生期間不要

汎用性: 有機物・無機物、対象を選ばない

低環境負荷性: 中性pH、いずれ土に還る生分解性

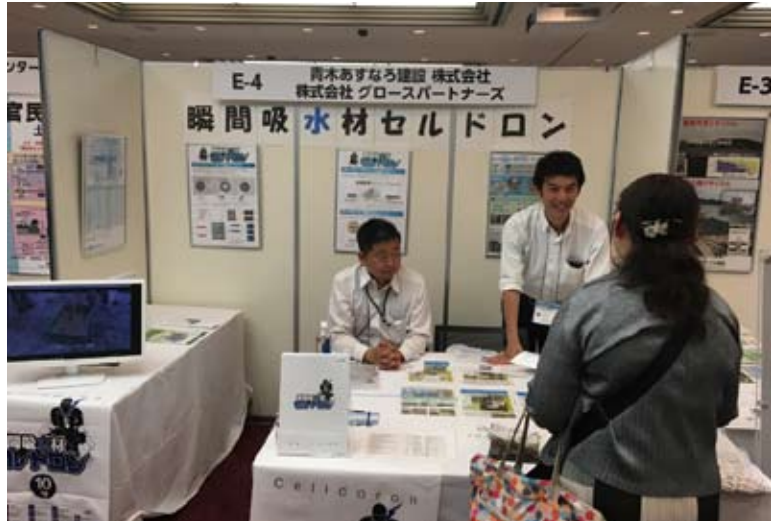
Cellidron
主成分はセルロース

セルドロンは、様々なセルロース繊維で構成される微細粒子。セルロースの持つ高い吸水性と、特殊な粒子構造により、土木・建設工事や農業工事、土砂災害等で発生する汚泥や土砂などの「濁水」「高流動性固液混合体」の流動性を即ち低下させます。その結果、「瞬時に」「対象を選ばず」「簡単に」作業性を向上させ、工期短縮、処分・処理コスト低減を実現します。

展示会・イベント 参加報告

2016建設リサイクル 技術展示会

2016建設リサイクル技術展示会に青木あすなろ建設株式会社様と共同出展させていただきました。32社前後の方にセルドロンのご紹介をしました。



多くの方の興味を引いたのが、「汚泥」をどのように処理するかでした。東京近辺は、掘削が増え（リニアや高速道路など）高含水汚泥が大量発生いたします。

処分場の問題もあります。が、リサイクルをすることが大切になっていきます。高含水汚泥は、水分さえなくなってしまうえば扱いやすい土の場合も一般的にセメント系固化剤や生

石灰で改良することが多く、植物の育ちにくい状態になってしまします。

セルドロンの改良は、自然に近い土のままリサイクルさせることが可能です。生物や植物があり、自然に優しい材料を選択される方はご連絡お待ちしております。

愛媛県ため池視察

- ①瞬間吸水性(すぐに搬出可能)
- ②汎用性(有機汚泥対応可能)
- ③低環境負荷性(pH8程度)

設計指針「ため池整備」は平成18年の改定後7年が経過し、近年の豪雨や地震の影響で「ため池整備」について改定の検討が進んでいる。

水田などの農業の水源として必要不可欠なため池は西日本に多く、全国各地で約21万箇所のため池が築造されている。

この21万箇所もあるため池の耐震調査を行い、必要な場合は対策工を実施する。

対策工には、仮設道路、アルカリ溶出、浚渫、工期、コストなど多くの問題があり、セルドロンの特徴ととても合致する。

全国で始まるため池の耐震補強工事や浚渫する際にはぜひセルドロンにお声がけください。

ため池上位10都道府県

No.	都道府県名	箇所数	No.	都道府県名	箇所数
1	兵庫県	47,596	6	岡山県	10,304
2	広島県	20,910	7	宮城県	6,074
3	香川県	15,990	8	和歌山県	5,925
4	山口県	11,785	9	新潟県	5,822
5	大阪府	11,308	10	島根県	5,782

資料:H9 農村振興局調べ

全国合計 210,769



キム・ギョンの
コラムコーナー
二本松の提灯まつりに行ってきました！
日本に来て日本の祭りを見てきて思ったのが韓国と日本の祭りは似たようなもののようなであっても、他の感じということを感じた。
祭りの近くで屋台が並んで食べものを売る風景は似ているが、韓国の祭りは、観光客の参加中心のイベントなら日本の祭りは熱心に準備したことを観光客に見せてくれるのが韓国と日本の祭りの差だったようだ。
しかし皆が楽しめる祭りという点では、結局は一つではないだろうか。

*原稿の原文そのままを掲載しております。

祭りの由来

今から約370年前(1643年:寛永20年)丹羽光重公が二本松城主として入部、「よい政治を行うためには、領民にまず、敬神の意を昂揚(こうよう)させること」と考え現在の架ヶ欄に二本松神社をまつり、領民なら誰でも自由に参拝できるようにしたのが「提灯まつり」の始まりといわれています。